

平成 29 年 10 月 4 日
総合調整会議資料

栗東市文化振興計画の見直しについて

教育委員会 スポーツ・文化振興課

1 趣旨

栗東市は、国の文化芸術振興基本法(平成13年制定)、滋賀県の滋賀県文化振興基本方針(平成23年度策定)を受け、「栗東市文化芸術基本計画」(平成15年度)を見直し、平成25年3月に「栗東市文化振興計画」を策定いたしました。

栗東市ではこの計画に基づき、文化団体の活動支援、栗東芸術文化会館さきらを中核施設として様々な事業、施策を展開してまいりました。しかしながら策定後4年あまりの間に、全国レベルで人口減少社会の到来によるコミュニティの希薄化・弱体化、消費の減少による活力の低下などが見られるようになりました。それに伴い地域では文化行政をめぐる状況は大きく変化し、文化活動の担い手の減少などの新たな問題が顕在化することが懸念されます。

このため、環境の変化や現行の振興計画の成果と課題を整理し、今後5年間の文化振興の理念や基本的な方針を定めるべく「栗東市文化振興計画」を見直すものです。

2 計画の名称 「栗東市文化振興計画」

3 計画の期間 平成30年度から平成34年度までの5年間

4 計画位置づけ

本計画は、「市民主体、市民協働によるまちづくり」「交流や連携で活力を創造するまちづくり」「優れた自然環境や歴史保全・継承し、発展させるまちづくり」を理念とする第五次栗東市総合計画を上位計画とし、文化政策と他の政策を包括的に推進していく上での指針となるものです。

5 計画策定の方法

- ・栗東文化芸術会議(委員9人) 2回開催予定
- ・パブリックコメントの実施(平成30年1月～2月実施予定)

6 基本目標

栗東文化芸術会議を設置し、平成25年度策定の計画の課題や目標に対する成果を踏まえ、引き続き栗東市の文化振興を図れるように見直しをします。

7 栗東市文化芸術会議委員

| 委員 | 所属団体 |
|--------|--------------|
| 林 悦子 | 栗東市文化協会 |
| 大西 洋子 | 栗東音楽振興会 |
| 長谷川 清 | 栗東市美術展実行委員会 |
| 山内 勝洋 | 栗東芸術文化会館さくら |
| 西尾 悦子 | 栗東歴史民俗博物館協議会 |
| 佐々木 元秀 | 栗東市立図書館協議会 |
| 近藤 宏一 | 立命館大学経営学部教授 |
| 鈴木 由希子 | 公 募 |
| 加藤 宏之 | 教育部長 |

8 計画見直しに向けた今後のスケジュール

| | |
|-------------|---------------|
| 平成 29 年10月 | 総合調整会議 |
| | 議会報告 |
| 平成 29 年11 月 | 関係各課照会 |
| | 第1回栗東文化芸術会議 |
| 平成 29 年12 月 | 議会報告 |
| | 第 2 回栗東文化芸術会議 |
| 平成 30 年 1月 | パブリックコメント |
| 平成 30 年 2月 | 意見の整理 |
| | 関係各課照会 |
| 平成 30 年 3月 | 計画策定 |
| | 議会報告 |

栗東市特別支援教育推進計画（平成30年度～32年度）について

1. 趣旨

「特別支援教育」が法律上明確に規定されて以来10年を迎え、滋賀県では、平成28年3月、「滋賀のめざす特別支援教育ビジョン（実施プラン）」が公表されました。

障がい者の権利に関する条約の批准や、それに伴う「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」をはじめとする国内法の整備や、インクルーシブ教育システムに関する国の動向、障がい者差別解消法の施行など、障がいのある児童・生徒を取り巻く環境の変化に伴い、特別支援教育の一層の推進を図るといえるものです。

本市では、平成29年3月、「栗東市特別支援教育基本ビジョン」を策定し、栗東市における特別支援教育の推進に向け、園・学校・関係機関が連携・協働するためのものとなりました。

2. 計画の名称 「栗東市特別支援教育推進計画」

3. 計画期間 平成30（2018）年度から平成32（2020）年度までの3年間

4. 計画の位置付け

「栗東市特別支援教育推進計画」は、「第5次栗東市総合計画」の策定に伴い、平成29年(2017年)には、学校教育に関する「第2期栗東市教育振興基本計画」の方向性を受けて、特別支援教育を実施するための計画として位置付けられています。

- (1) 本市の特別支援教育推進の基本となるものです。
- (2) 本市の最上位計画である「栗東市総合計画」を受け、また他の分野別基本計画との整合性を確保しながら推進するものです。
- (3) 教育行政を取り巻く環境や、財政状況の変化に対応して、弾力的に運用するものです。
- (4) この中で示す方向や施策について、市民の理解と協力および積極的な参加を求めるものです。また、国・県に対しては、積極的な支援と協力を期待するものです。

5. 計画策定の方法

- ・栗東市特別支援教育推進協議会推進計画策定部会（学校教育課、幼児課、子ども発達支援課）4回開催予定
- ・保護者や市民、関係機関からの意見・要望調査
- ・教員からの意見聴取
- ・パブリックコメントの実施

6. 基本目標

子どもたちに関わる全ての人や関係機関などが協力し、互いに認め合い共に育つ教育を進めていくことこそが、新しい社会づくりにおいて大変重要であるということを考慮し、特別支援教育に関する様々な施策を実施するとともに、特別支援教育のさらなる充実を図るための基本目標として策定を進めていきます。

策定のスケジュール

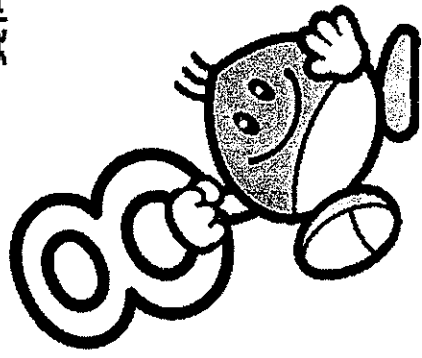
| 時 期 | 内 容 |
|----------|--------------------------------------|
| H29年 6月 | 第1回特別支援教育推進協議会（策定委員会設置確認・スケジュールについて） |
| H29年 10月 | 第2回特別支援教育推進協議会（推進計画案協議） |
| H29年 10月 | 総合調整会議（推進計画策定スケジュール報告） |
| H29年 10月 | 議会説明（計画概要及びスケジュールについて） |
| H29年 12月 | パブリックコメント 実施 |
| H30年 1月 | パブリックコメントの結果について |
| H30年 1月 | 特別支援教育推進計画（案）について |
| H30年 2月 | 特別支援教育推進計画（案）について |
| H30年 2月 | 推進計画策定委員会（推進計画最終確認） |
| H30年 2月 | 総合調整会議（特別支援教育推進計画（案）） |
| H30年 2月 | 議会説明（特別支援教育推進計画（案）） |
| H30年 3月 | 特別支援教育推進計画策定 |

栗東市教育委員会
平成29年度 全国学力・学習状況調査結果について
～栗東市の結果の概要と今後の取組～

- ◇全国学力・学習状況調査の概要◇
〈実施日〉平成29年4月18日(火)
〈対象〉小学校9校 第6学年 児童755名
 中学校3校 第3学年 生徒675名
〈調査内容〉
○教科に関する調査〔国語 算数・数学〕
○生活習慣や学習環境等に関する
 質問紙調査

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てる目的で、毎年全国全ての小中学校を対象に実施されています。

ここでは、栗東市における今年度の調査結果の分析についてお知らせするとともに、それを踏まえた今後の学ぶ力向上策についてご説明いたします。



教科に関する調査結果

小学校国語

グラフの見方
全受験者数を
100%として評価
観点別に割合を
示しています。

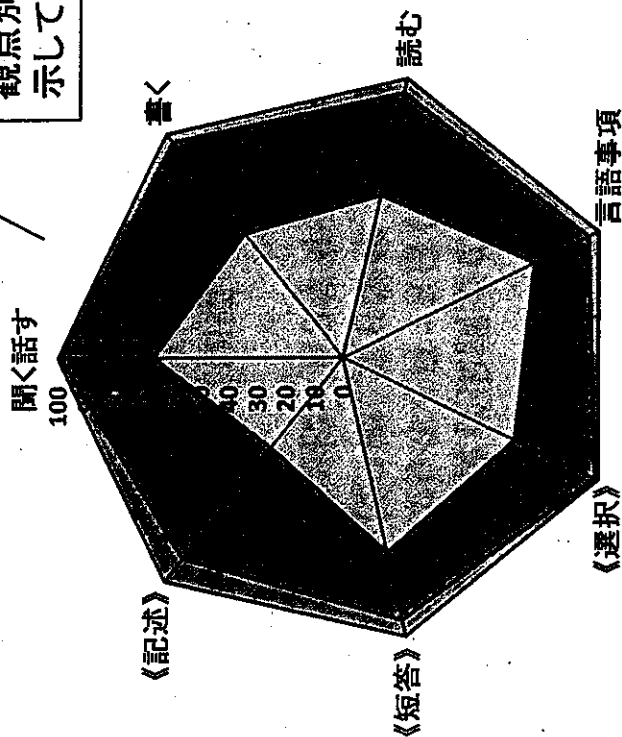


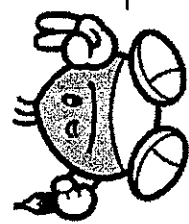
図1. 領域・《解答形式》別解答状況(小学校・国語)

解答形式について

《選択》複数の選択肢から選んで解答するもの

《短答》適切な語句や数字で解答するもの

《記述》文章で記述して解答するもの



優れている点

- ・俳句に込められた作者の思いや表現の特徴を捉える問題、ことわざを文章の中で用いる問題で正答率が高かったです。
- ・自分の伝えたいことが伝わるように文章の構成を考ええる問題、内容を工夫してスピーチ原稿を書く問題で全国値を上回りました。

課題となる点

- ・「タイシヨウ」といった同音異義語で課題が見られました。国語辞典等で調べる習慣をつけ、漢字の意味を理解して文章の中で正しく使える力をつける必要があります。
- ・物語を読み、叙述をもとに理由を明確にして自分の考えを書く力(P.2)で課題が見られました。読書習慣をつけるとともに、読書感想文などで自分の考えをまとめて書く経験を積むことが大切です。

小学校国語で課題が見られた問題

B問題 3 三

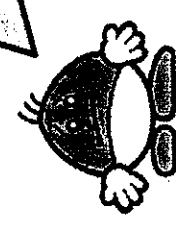
物語を読み、具体的な叙述をもとに理由を明確にして、自分の考えをまとめて書く問題

【正答例】
「松ぞうじいさんの目に、なみだがキラリとひかりました」というところは、人間にうちとられてしまった仲間のきつねを思う気持ちが表れていると思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えたよ。

↓

複数の叙述を結びつけて、松ぞうじいさんがきつねであると考えたわけについて書いている。

松ぞうじいさんやとび吉がきつねであることが分かる叙述を取り上げることはできても、その叙述を基にして、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを書くことができなかったという誤答が見られました。



あまんきみ「物語「きつねの写真」より
【話し合いの様子の一部】から
(略)

大岩 きつときつねだよ。他にもきつねで考えられるところはあるかな。

田中 (②を示しながら)「三」で、松ぞうじいさんが「ついでにきつね」と言っているところがあるでしょ。私は、「三」からもきつねでわかる気がするんだけど、どうかな。

原 私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。田中さんの言いたいことはそういことではないのかな。

田中 そうそう。

横山 (①を示しながら)「三」にもあるよ。「人間にうちとられたり」と書いてあるけど、もし、松ぞうじいさんが本当に人間なら、「人間に」とか「うちとられた」とは言わないと思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることもできるね。

田中 そこからも、松ぞうじいさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。

B

↓(話し合いが続く)↓

三 【話し合いの様子の一部】の中の B のところで、田中さんは、【物語の一部】の言葉や文を取り上げながら、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを話しています。あなたが田中さんならどのようなわけを話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- (赤字)の横山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

小学校算数

優れている点

- 5÷9の商を分数で表す問題や最小公倍数を求め問題で全国値を上回りました。計算問題での平均正答率も高く、くりちゃん検定の成果だと言えます。公倍数や公約数は、中学校でも多くの場面で用いられるため定着が必要です。
- 2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを、与えられた言葉と数で記述する問題で全国値を上回りました。主体的に問題を解決しようとする態度を育てるには、数量関係のきまりを見出したり、いつでも成り立つかどうかを考えたりする楽しさを実感させることが大切です。

課題となる点

- 正五角形をかくためには、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを捉え、円の中心のまわりの角の大きさを5等分することを答える図形の問題で全国値と開きが見られました。
- 平均や割合の求め方を活用して、言葉や式を用いて記述する問題(P.4)で平均正答率が低かったです。日常生活の中で平均や割合を活用したり、およそどれくらいになるかの見当をつけたりする力を育てることが必要です。

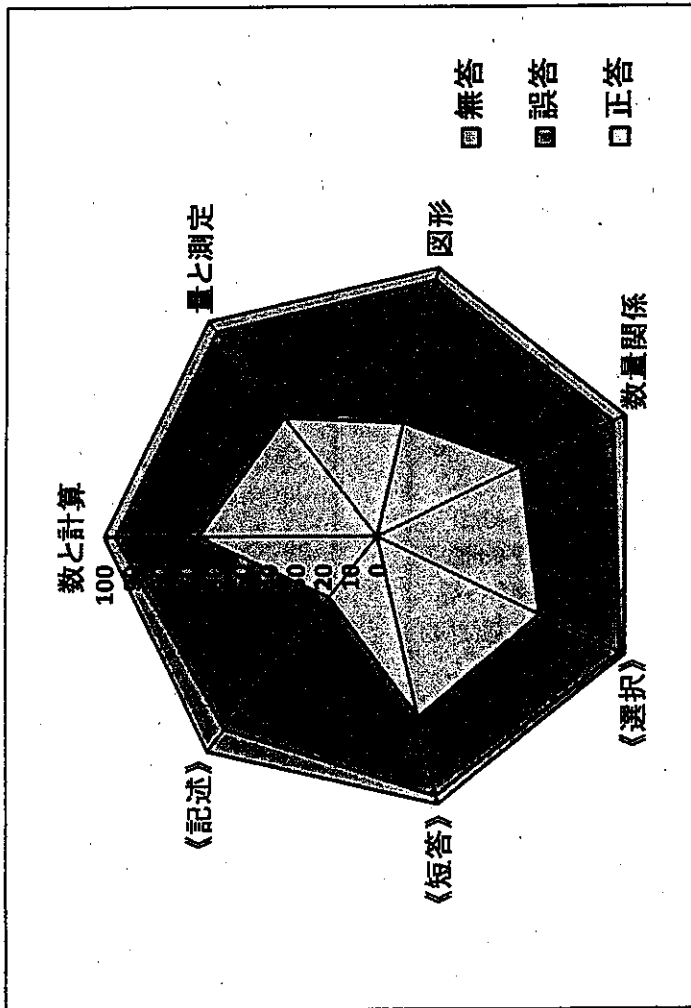
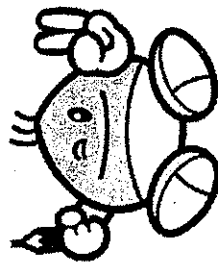


図2. 領域・《解答形式》別解答状況(小学校・算数)



小学校算数で課題が見られた問題

次に、車の先頭がイの位置に来るまで輪ゴムを伸ばした場合の、車が進んだきよりを5回調べ、表2のようにまとめました。表2をもとに、きよりの平均を考えます。

表2 イの位置に来るまで輪ゴムをのびた場合の記録

| 回数 | 車が進んだきより |
|----|----------|
| 1 | 7m52cm |
| 2 | 7m31cm |
| 3 | 7m54cm |
| 4 | 7m20cm |
| 5 | 7m43cm |

かずやさんは、平均を求める計算を簡単にするために、7mをこえた部分に着目し、次のように平均を求めました。

【かずやさんの平均の求め方】

7mをこえた部分の平均を求めます。
 $(52+31+54+20+43) \div 5 = 40$
 7mに、求めた平均の40cmをたします。
 車が進んだきよりの平均は、7m40cmです。

B問題 3 (2)

仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題

【かずやさんの平均の求め方】を聞いたはるなさんは、次のように考えました。

はるな
 7mのかわりに、7m20cmをこえた部分に着目しても、平均を求めることができます。

(2) 7m20cmをこえた部分に着目した平均の求め方を、言葉や式を使って書きましょう。

【正答例】

7m20cmをこえた部分の平均を求めます。
 $(32+11+34+0+23) \div 5 = 20$
 もとにした7m20cmに、求めた平均の20cmをたします。
 車が進んだきよりの平均は、7m40cmです。



・ $(32+11+34+20+23) \div 5 = 24$ 7m20cmに求めた24cmをたします。平均は7m44cmです。のように基準とする数値が7mから7m20cmに変わったことを捉えることはできなくても、4回目に測定した車が進んだ距離の7m20cmと、基準とする数値の差を0cmと捉えることができなかった誤答がありました。

中学校国語

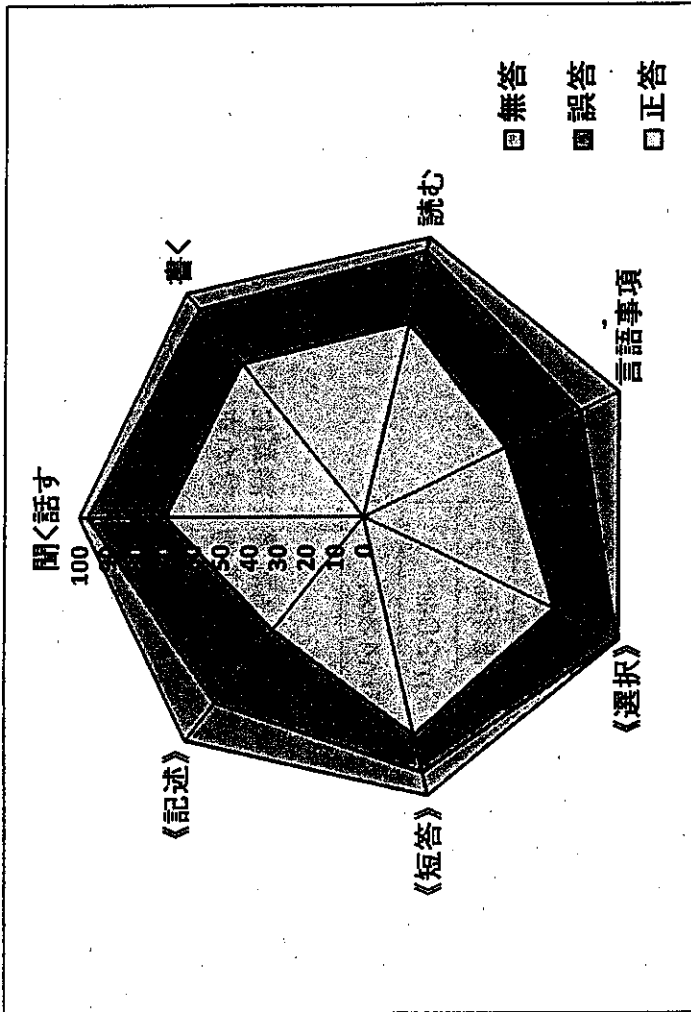
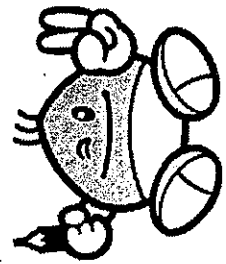


図3. 領域・《解答形式》別解答状況(中学校・国語)



優れている点

- 文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりする問題の平均正答率が高く、「エンキ」(延期)や「イトナむ」(営む)の漢字を書く問題では、全国値を上回りました。小学校で学習した漢字が多く出題されており、くりちゃん検定での繰り返し学習が定着につながっています。
- 尊敬語や接続語などの語句の使い方を理解し、文脈に合う語句を選択する問題で平均正答率が高く、特に敬語については、全国値を上回りました。語彙を豊かにするには、辞書等を活用しながら着目した言葉について類義語で言い換えたり、ことわざや慣用句、故事成語などの表現に置き換えたりする学習も効果的です。

課題となる点

- 「比喩を用いた表現」に着目して読み、感じたことや考えたことを書く問題(P.6)で平均正答率が低く、全国値との差が見られました。その表現が何を表すのかといった理解が不十分です。比喩や反復などの基本的な知識が説明の根拠として活用できるよう定着を図ることが必要です。
- 自分の考えを書く力に課題が見られました。無解答も目立ち、書くことに対する抵抗が大きいことも考えられます。様々な場面や条件を設定して書くなど、楽しみながら書けるよう工夫することが大切です。

B問題 1 三

比喩の表現の仕方を捉え、自分の考えを書く問題

中学校国語で課題が見られた問題

〔本の一部〕

～略～

いつだったか、雨の降る午後にふたりで倉庫へ上がって、新しく入ったらしい桐の箱を見つけたことがある。中から、柳の葉の流れるような文様が息をのむほど美しい五寸皿が出てきた。感想を言おうにも、はあとか、すんとか、そんな声しか出てこないので、あきらめてふたりして長いこと見入っていた。雨の音も聞こえなかった。だいぶ時間が経ってから七葉が、水に濡らしてみようよ、と言った。焼き物は水に入れるといつそう美しくなるものがあるといつか父が話していた。その思いつきにわくわくしたのは事実だ。それでも、怖さのほうに勝った。すこくいいものだと思っただけにもわかつたから、もしお皿に何かあつたら大変だと思つた。

七葉は耳を貸さなかつた。興奮のあまり黒い目が濡れたように光って怖いくらいだった。だめだ、と思つた。ときどき七葉はうんと頑固になるのだ。さつと立ち上がり皿を掲げるようにして倉庫部屋を出ると、廊下の窓を開けた。なにすの、と声をかける間もなく、七葉は窓から皿を突き出した。庇から落ちる雨たれを皿に受ける気だつた。小さな手が皿をつかんで空中へ差し出す様子はあまりにも乱暴で、危なかつた。すぐに止めようと思つて近づいた私は、あつと小さく叫んだ。雨に濡れていく皿が、まるで生き物のようになまめかしく見えた。笑っている、と思つた。皿が笑っている。美しく冷たい皿が、命をよみがえらせていくさまを、七葉の後ろから息を詰めたまま見つめていた。

～略～

【読書の記録】

| | |
|-----|-----------|
| 書名 | スコール№4 |
| 著者名 | 宮下奈都 |
| | <心に残った一文> |
| | |
| | |
| | |
| | <感想> |
| | |
| | |

三 青山さんは、【本の紹介カード】にある「比喩を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどを【読書記録】に書いています。あなたならどのようなことを書きますか。

条件1 <心に残った一文>は、【本の一部】から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2 <感想>は、条件1で取り上げた表現について「誰(何)の」「どのような様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【正答例】

- <心に残った一文>
興奮のあまり黒い目が濡れたように光って怖いくらいだった。
- <感想>
七葉が自分の思いつきに興奮して目を輝かせている様子を表して、七葉がお皿を水に濡らすことに夢中になっている姿が想像できます。

<心に残った一文>に比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出せていない。
<感想>に取り上げた比喩表現について、「誰(何)の」「どのような様子なのかを明確にして書けていない。
といった誤答がありました。



中学校数学

優れている点

- 「資料の活用」の領域で大きな改善が見られました。特にサイコロの目の出方に関する確率の問題では、全国値を上回りました。問題解決のため
の構想を立てるには、データを収集、整理し、傾向を捉える、また、視点を変えてデータを整理し直し、分析するといった力が大切です。今後、必要能力だと言えます。
- 「3月25日」を基準にして「3月23日」を負の数で表す問題で平均正答率が高かったです。中学校では、数の扱う範囲が広がりますが、正の数と負の数の必要性和意味を実生活に結びつけて考えることができました。

課題となる点

- 反比例の比例定数を求めるもの、グラフから x と y の関係を式に表すもの等、「関数」の問題で全国値と開きが見られました。表と式、式とグラフ、具体的な事象とグラフのように関連づけて捉えることで理解を深めることができます。
- 事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する問題(P.8)で無解答が目立ちました。結論を導くには何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見いだすことが大切であり、注目すべき視点を捉えて、数学的に表現する力を鍛えていく必要があります。

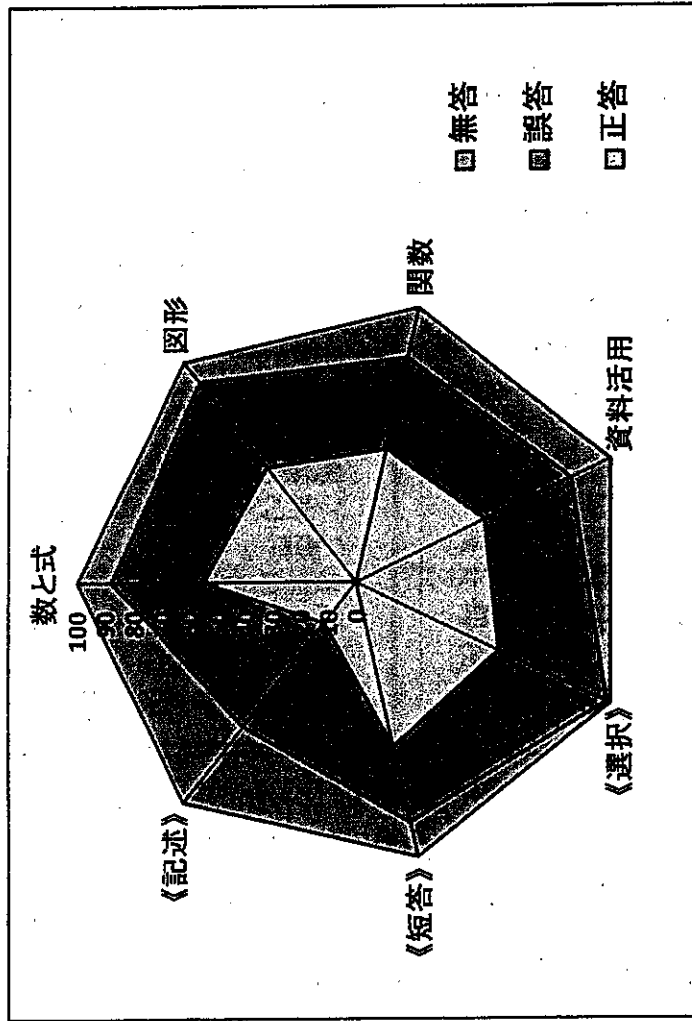
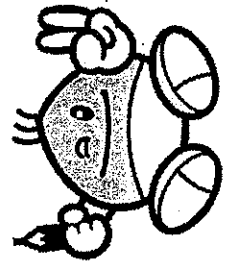


図4. 領域・《解答形式》別解答状況(中学校・数学)



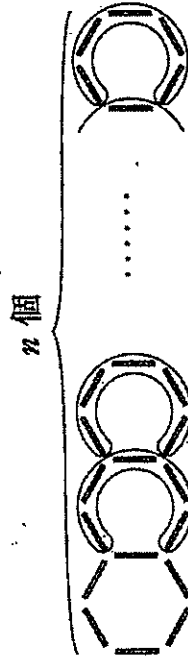
中学校数学で課題が見られた問題

B問題 2 (3)

事象と式の対応を捉え、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する問題

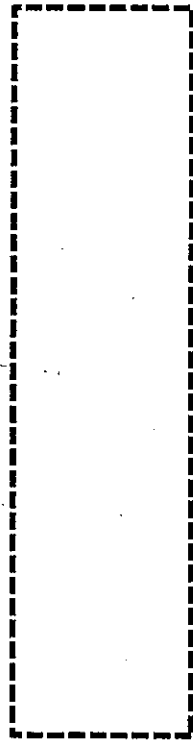
図2のように囲み方を覚えてみると、六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数は、 $6 + 5(n - 1)$ という式で表すことができます。六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を表す式が $6 + 5(n - 1)$ になる理由について、下の説明を完成しなさい。

図2



説明

ストローを図2のように囲むと、



したがって、六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を表す式は、 $6 + 5(n - 1)$ になる。

【正答例】

・1つの囲みにストローが5本ある。
その囲みが $(n - 1)$ 個あるので、この囲みで数えたストローの本数は $5(n - 1)$ 本になる。
このとき、左端に囲まれていないストローが6本あるので、必要なストローの本数は $5(n - 1)$ 本より6本多い。

【誤答例1】

・最初に並べた六角形のストローの本数が6本あり、1つの囲みにストローが5本ある。その囲みが n 個あるので、この囲みで数えたストローの本数は $5n$ 本になる。
⇒ 囲まれていないストローの本数については捉えることができているが、囲みの個数については捉えることができていない誤答がありました。

【誤答例2】

・1個目の六角形は6本のストローを使ってできる。残りの六角形は5本ずつのストローでできる。最初は6本使っていて、1本のストローをひくので $(n - 1)$ になる。
⇒ 六角形の個数とストローの本数を混同している誤答がありました。

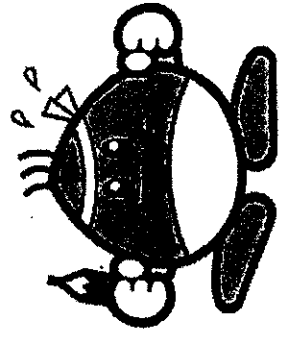


今年度 改善された点

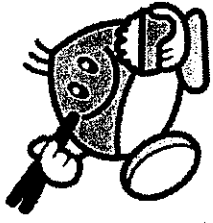
- 各教科の平均正答率について、全国値と栗東市との差をみてみると、昨年度と比較して、小学校では、国語A問題以外のすべての調査で改善がみられました。中学校では、数学B問題で改善がみられ、特に「資料の活用」で大きな伸びがみられました。
- 中学校数学B問題において、数学的に説明する記述問題で弱さがみられましたが、他の調査では、小中学校共に昨年度と比べて記述問題における無解答率が減少し、難しい問題でもあきらめずに挑戦しようとする「学習に向かう意欲」がさらに育ってきています。

☆各校では、授業改善に取り組み、「何ができるようにするか」を明確にして、子どもたちがその授業でめざすべき目標（めあて・ねらい）を提示するようになりました。「どうしてそのような答えになったのか」といった根拠をもとにして書いたり、話し合ったりする活動を積極的に取り入れることによって主体的な学びを促し、自分の考えが深まるようになり取り組んでいます。

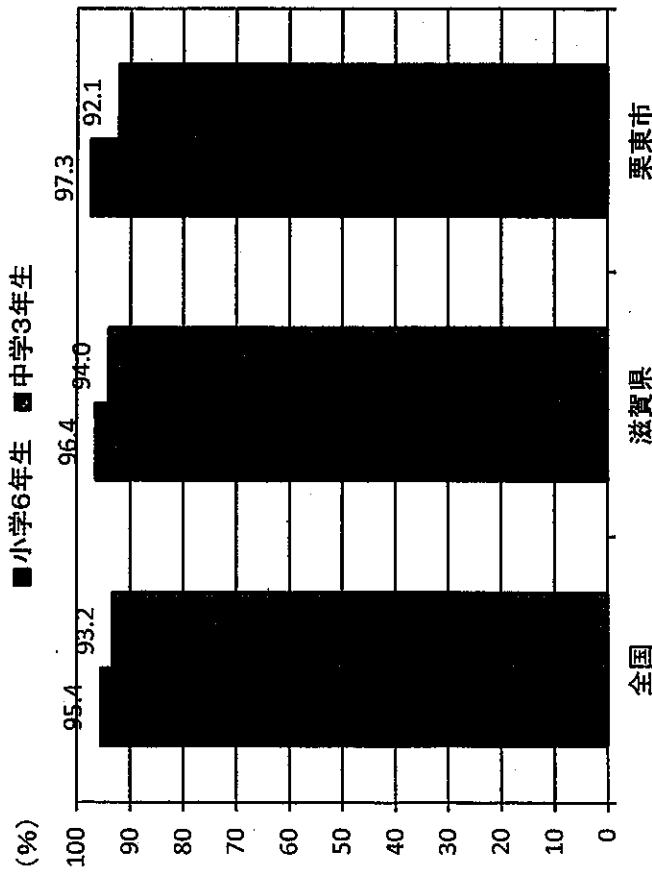
また、子どもたちの学習状況を把握し、個々の子どもに合った支援をすることで、子どもたちの「できた」「わかった」が増えるように努めています。



児童生徒質問紙調査結果



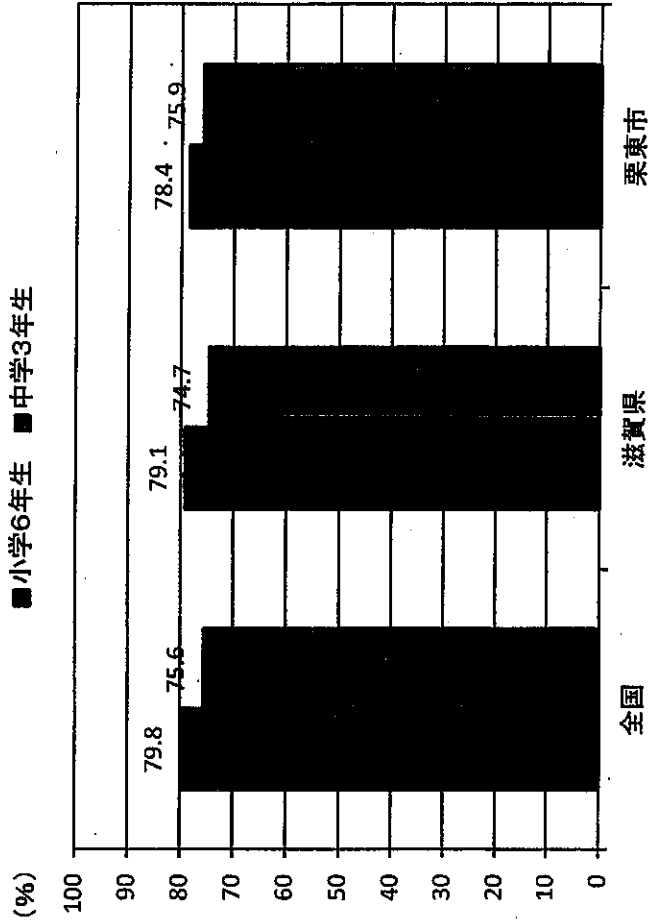
朝食を毎日食べている



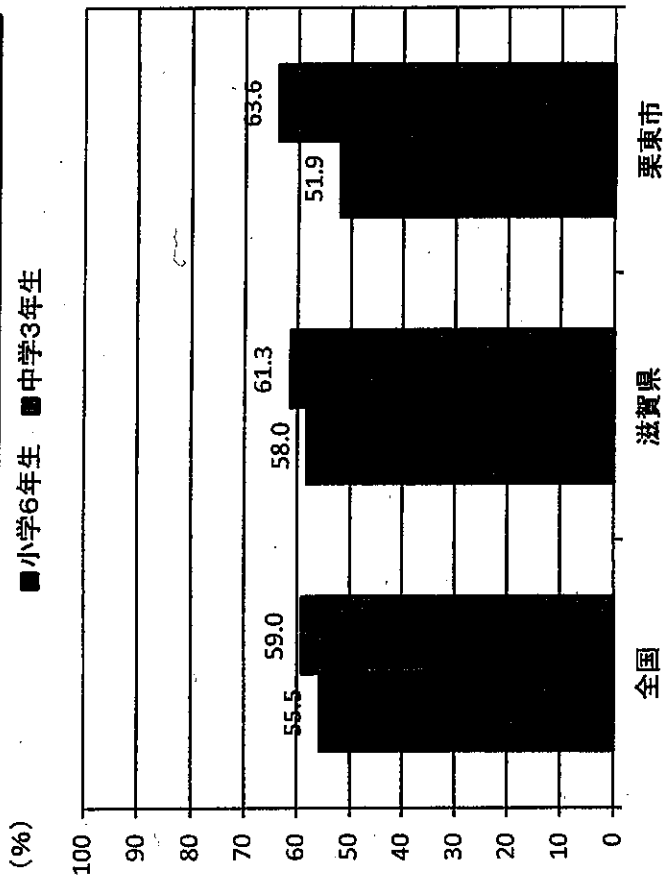
脳が十分に働くために重要なのは「睡眠時間」と「朝ごはん」です。ぐっすり寝ないと記憶が脳に定着せず、日中努力したことが頭に残りません。朝ごはんを食べないと、がんばりたくても8割の力しか出せません。「早ね・早おき・朝ごはん」は、脳を働かせるコツなのです。

くりちゃん元気いっぱい運動の「早ね・早おき・朝ごはん」が各家庭で定着してきていると言えます。基本的な生活習慣は、学ぼう意欲を支える土台となります。

毎日、同じ時刻に寝ている



普段（月～金）、1日当たり1時間以上、ゲームをする
（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）

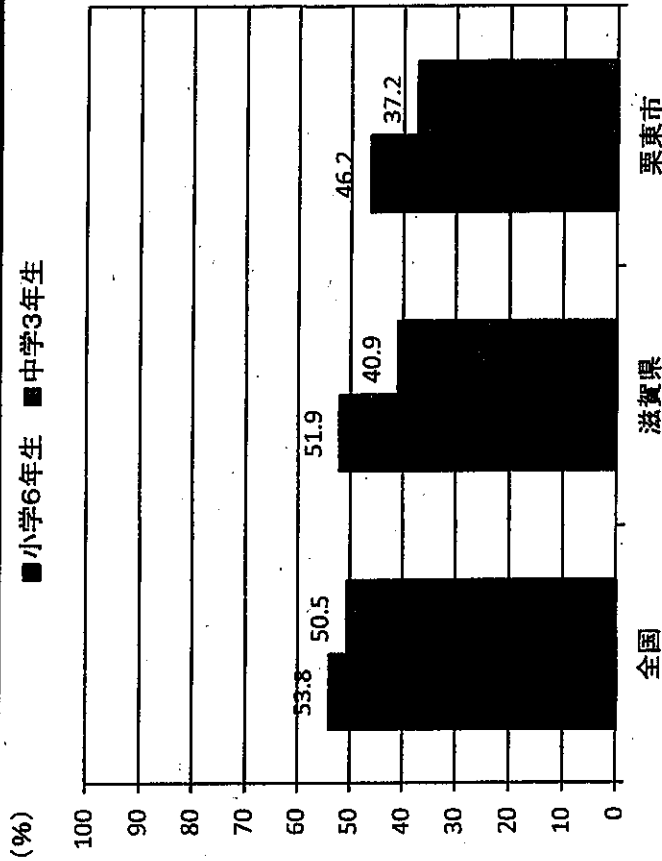


「復習をしている」と肯定的に回答した児童生徒は、全国値より低いです。学習したことを定着させるには、家庭学習が不可欠です。授業で学んだことをふりかえり、自分でじっくりと考える時間をもつことで生きて働く知識になります。家庭学習の習慣をつけることは、「わかった」「できた」をつくり出し、学びに向かう態度を育てます。

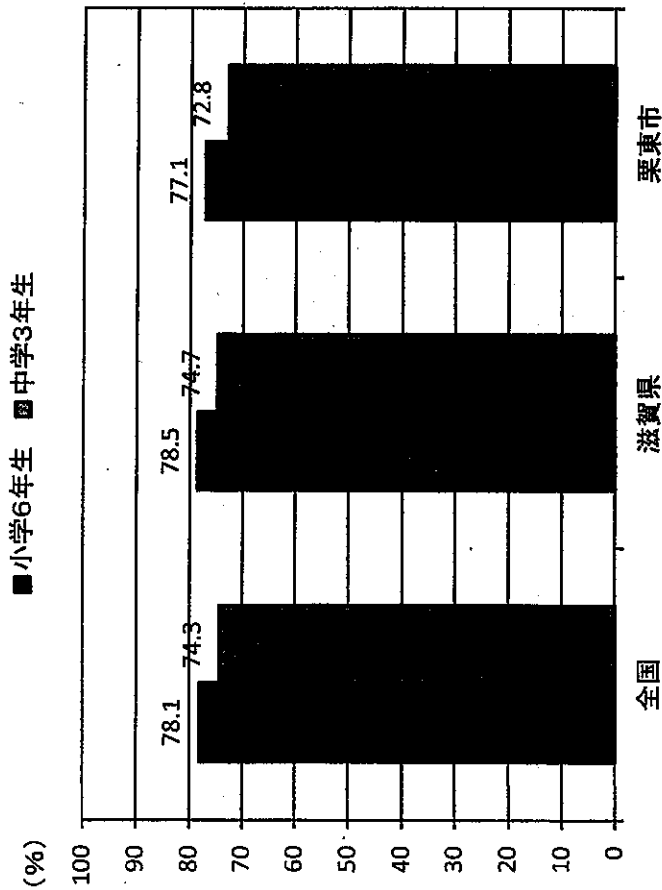
ゲームを含め、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長くなる傾向があります。携帯電話やスマートフォンを長時間使用すると、勉強や睡眠の時間が削られるだけでなく、「習得した学習が消えてなくなる」とも言われています。また、携帯電話やスマートフォンの所持率は、小学6年生では6割強、中学3年生では9割弱ですが、家の人と約束したことを守っていると回答した児童生徒は、5割に達しません。

お子さんに携帯電話やスマートフォンを持たせる場合は、そのリスクについて理解し、使用に関する約束事を必ず決めて、見守るようにしましょう。

家で学校の授業の復習をしている



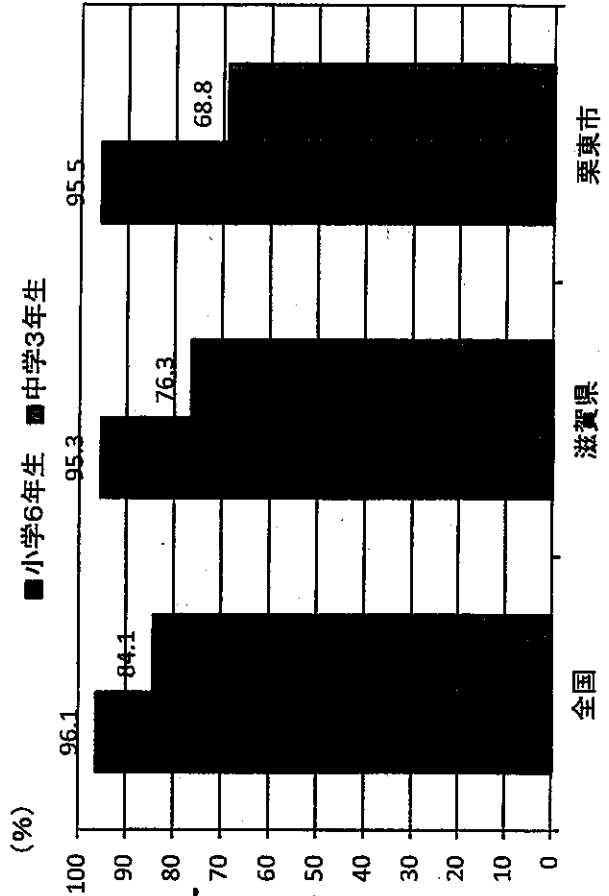
家の人と学校での出来事について話をする



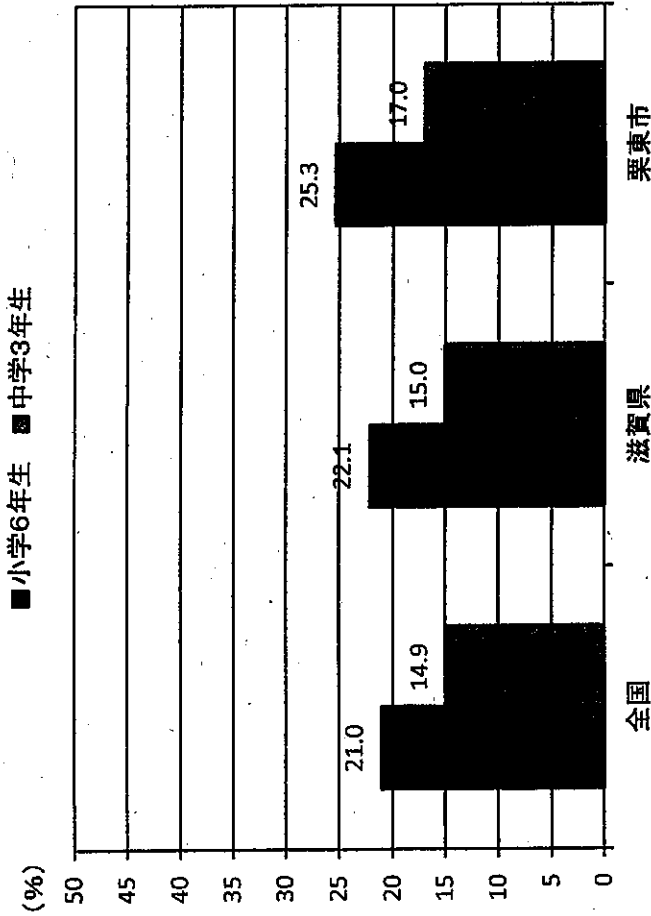
子どもが中学生になると、学校行事に参加することが難しくなるようです。しかし、学校行事は、子どもの成長に出会えるチャンスです。中学生になると、子どもから手を離すことが増えますが、目は離さないでいたいものです。子どもの頑張りを温かく見守るまなざしは、子どもが安心して挑戦できる力となります。

家の人にじっくりと話を聞いてもらう、将来の夢や目標について話し合うなど日頃から家庭で活発なコミュニケーションが交わされていると、子どもの心の中に目的意識や知的探究心(≡学ぶこと自体を楽しむ気持ち)といった学習意欲が力強く育つと言われています。将来の目標について自分の経験を含めて語り合うなど、子どもとのコミュニケーションを楽しみましょう。

家の人、授業参観や運動会などの学校の行事に来る

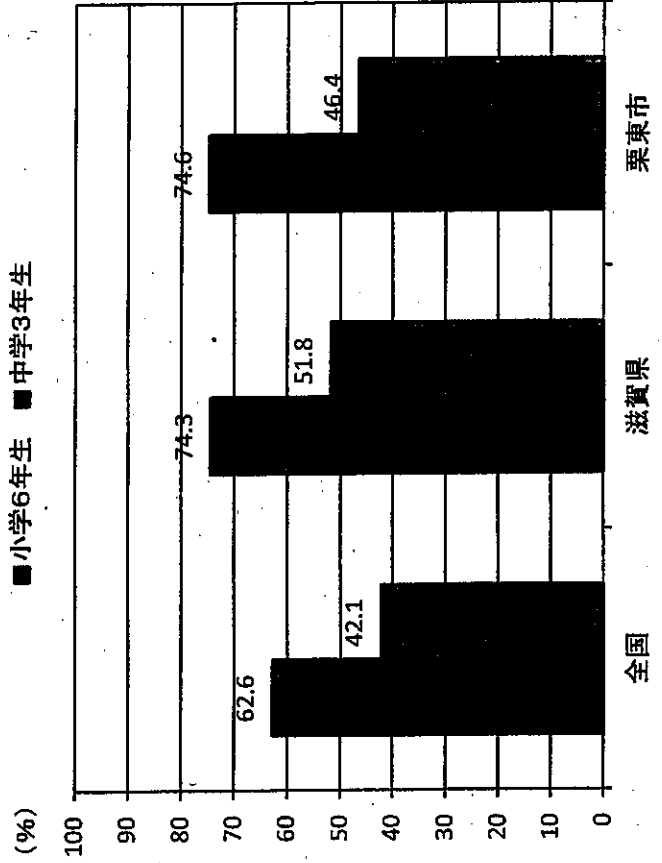


新聞を週に1回以上読んでいる



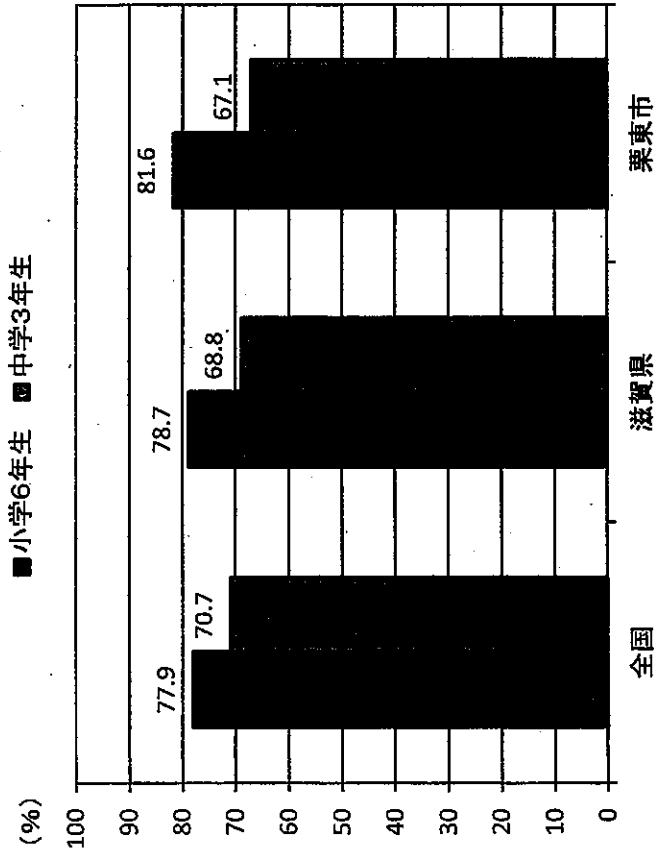
「新聞を読んでいる」と肯定的に回答した児童生徒は、全国や滋賀県値より高いです。新聞を読むことは、社会に興味を持ち、現実社会の諸課題に対して多面的に考察したり、公正に判断したりする力を育てることにつながります。

今住んでいる地域の行事に参加している



「地域の行事に参加している」と肯定的に回答した児童生徒は、滋賀県、栗東市共に全国値より高いです。子どもたちは、地域の中で育っていることが分かります。地域に愛着をもち、地域で活躍できる子どもを育てたいものです。

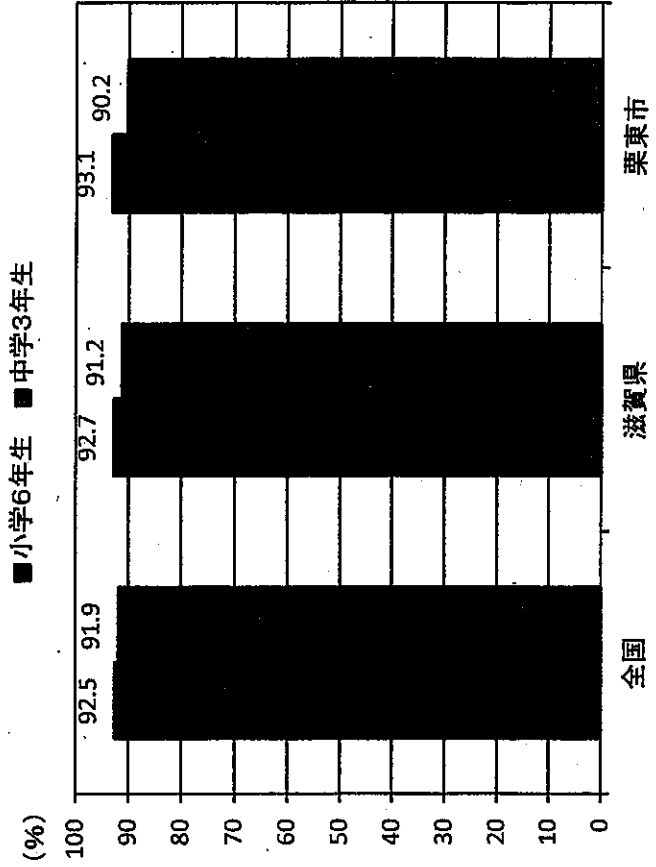
自分には、よいところがあると思う



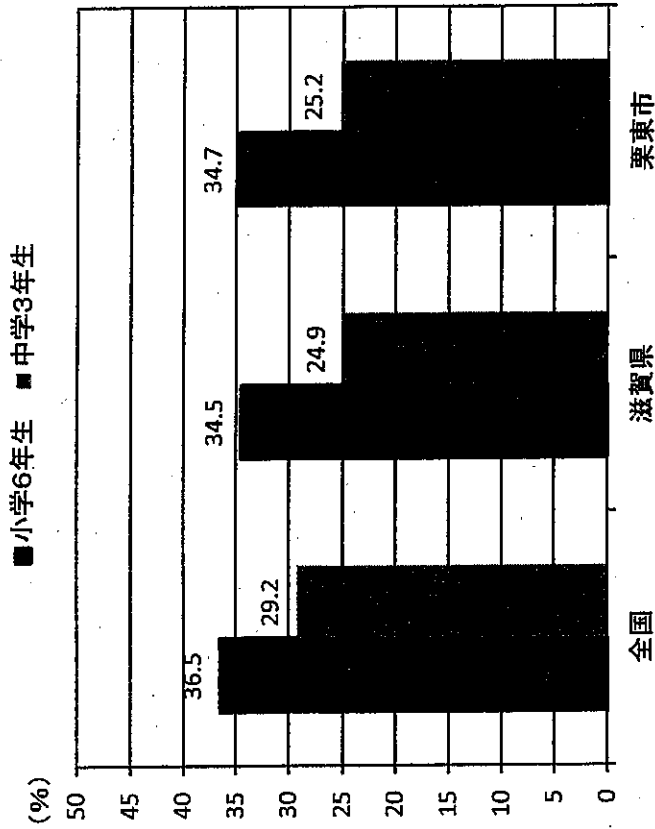
「人の役に立ちたい」という気持ちや育ってき
ています。「人の役に立っている」という思い
は、自尊心を高め、「やってみよう」「何と
かしたい」といった次への原動力にもなりま
す。ボランティア活動などを通して、人の役に
立ってうれしかった経験を積ませていきたい
ものです。

「自分には、よいところがあると思う」と肯定
的に回答した小学生は、全国値より高いで
す。しかし、中学生になると自尊心が低く
なる傾向があります。自分自身のことがよく
見えるようになり、他と比較することが多くな
るからかもしれません。結果だけにとられ
るのではなく、子どもの頑張っている過程を
認めることを大事にしたいものです。

人の役に立つ人間になりたいと思う



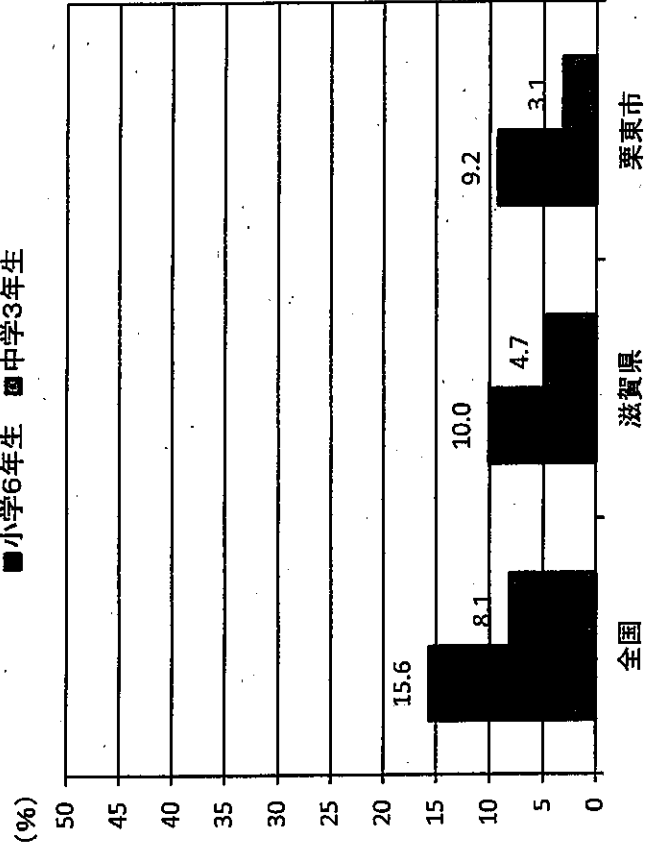
普段（月～金）、1日当たり30分以上読書をする
（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



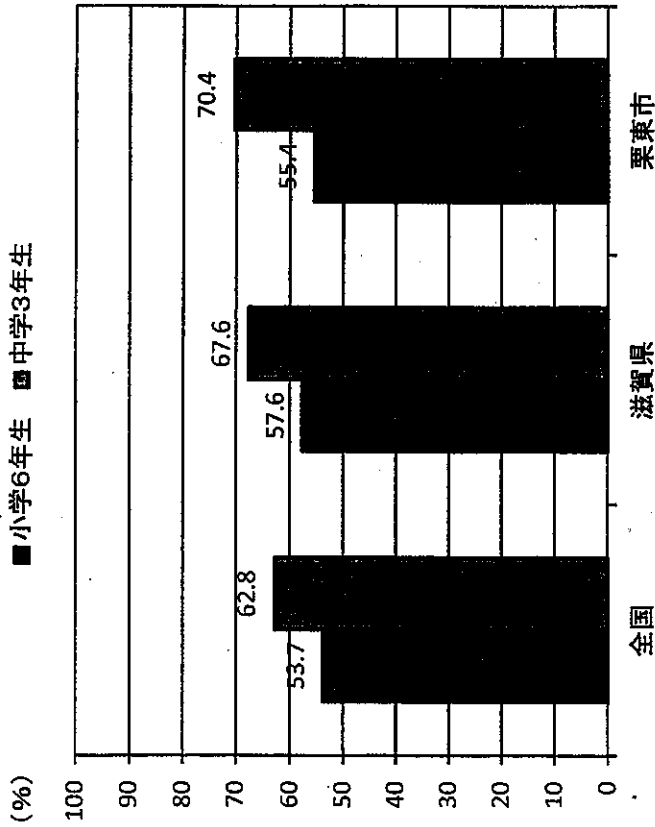
学校図書館や地域の図書館を利用している児童生徒は、全国と比べて随分と少ない傾向にあります。栗東市では、活用しやすい学校図書館をめざしてリニューアル事業を進めています。ご家庭でも一緒に図書館に出かけたり、ノーテレビデーを設けて読書の時間をとったりと本の魅力に触れる機会をつくってみてください。

近年、不読率（1冊も本を読まない児童生徒の割合）は、減少傾向にあり、「読書をする」と肯定的に回答した児童生徒は滋賀県値より高いです。しかし、中学生になると読書離れが進む傾向にあります。読書は、読解力や表現力を身に付けるだけでなく、想像力や豊かな心も育みます。学校では、読み聞かせや一斉読書に取り組み、本に親しむ機会を設けています。

休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に週1回以上行く



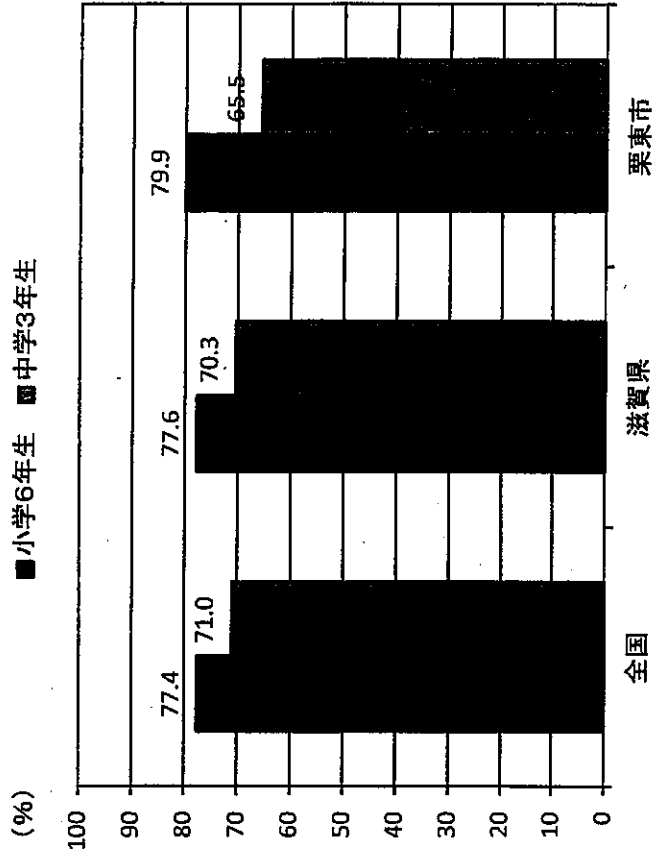
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う



「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦して、いる」と肯定的に回答した小学生は、全国値よりも高く、何事にも意欲的に取り組んでいる様子が伺えます。一方、中学生になると大きく減少し、自信のなさが伺えます。何事にも挑戦する意欲は、自分の可能性を広げることになります。失敗を励まし、乗り越える経験を十分に積ませたいものです。

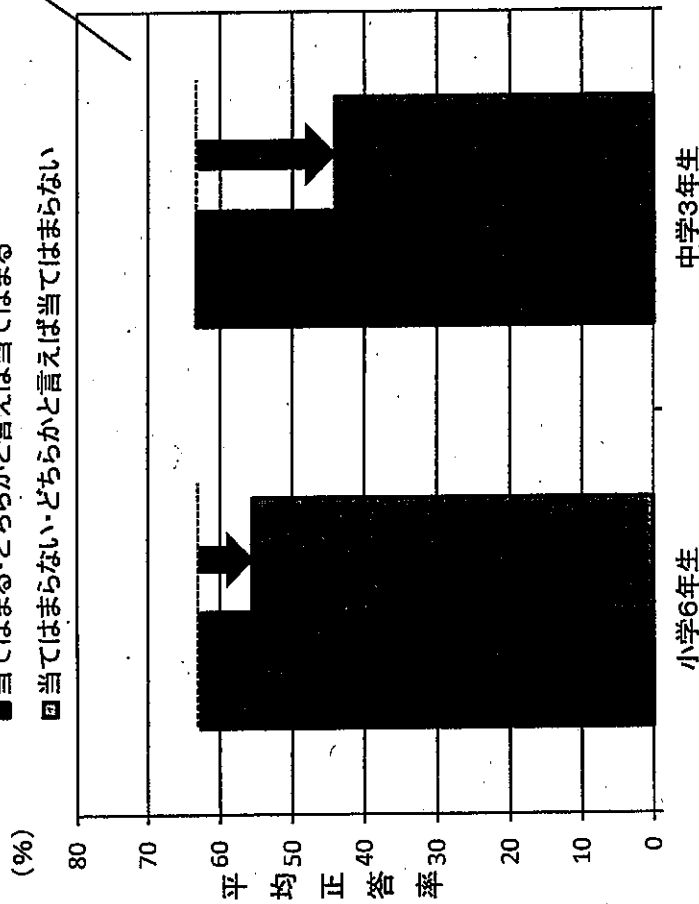
自分の考えを表現することに苦手意識をもっている中学生が多く、特に文章を書くことに難しさを感じているようです。「書くこと」は、自分の考えを整理し、深めることにつながります。自分の考えを自分の言葉で書く活動を積極的に取り入れ、主体的に学ぶ力を育てたいものです。

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している



学校のきまりを守っている

- 当てはまる・どちらかと言えば当てはまる
- 当てはまらない・どちらかと言えば当てはまらない

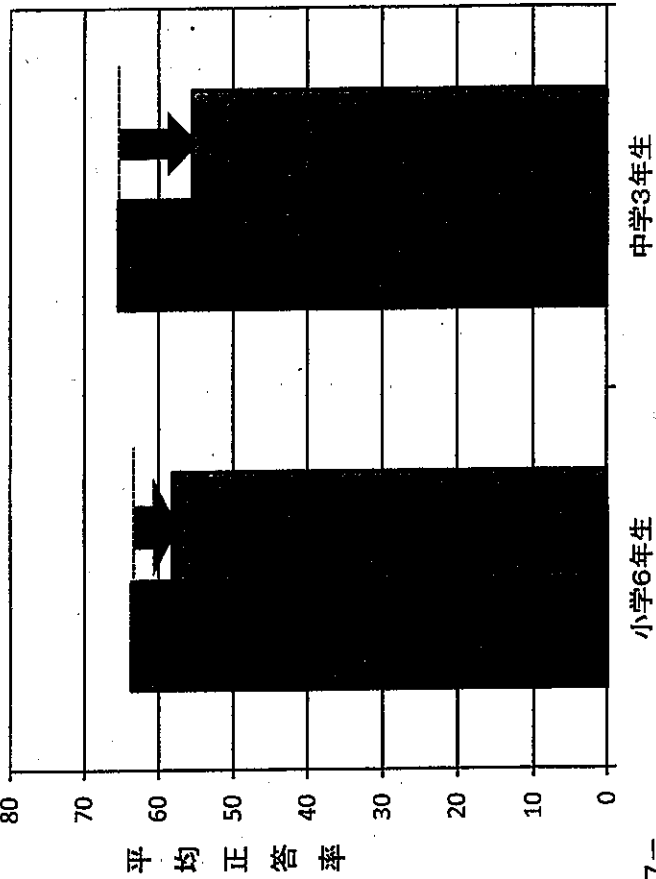


「学校のきまりを守っている」「読書は好き」と肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は高い結果でした。特に中学校調査では、大きな差が見られます。きまりを守る態度や読書習慣は、子どもの学びに向かう態度や学習意欲につながると言えます。

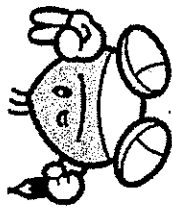
グラフの見方(クロス集計結果)
児童生徒質問紙で回答した結果ごとに教科に関する調査(国語、算数・数学)を合計した平均正答率を表しています。

読書は好き

- 当てはまる・どちらかと言えば当てはまる
- 当てはまらない・どちらかと言えば当てはまらない



栗東市の学ぶ力向上策



くりちゃん元気いっぱい運動

- 「早ね・早おき・朝ごはん」では…基本的な生活習慣の定着を進めます。
- 「きらりフルチャレンジ」では…
 - ・小学校くりちゃん検定の取り組みを行い、基礎的な学力と学習習慣の定着、意欲の向上を図ります。学習の足跡をテキストに残し、目標を持って取り組めるようにしています。
 - ・「栗東市学力調査(国・数・英・生徒質問紙)」「中学2年生】を実施し、生徒の学ぶ力の検証を授業改善につなげます。また、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、補充学習の充実を図ります。
- 「ありがとうが言える子育て」では…自尊感情を育み、規範意識や良好な人間関係を築いていく素地を培います。

教職員の授業改善に向けた取り組み

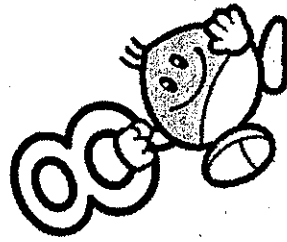
- これまで各校が実施してきた授業研究会を、学校間を越えて交流し合うことにより、小中連携を進め、授業改善が図れるようにしました。
- 栗東市立教育研究所が主催する夏期研修講座を充実させ、教職員の指導力向上に努めています。
- 滋賀県教育委員会や市外から講師を招いて研修したり、先進的な取り組みを学んだりしています。

読書環境の充実

- 一斉読書や授業などで読書指導の充実に努め、読書習慣の推進、「読む力」の向上を図ります。
- 学校図書館リニューーアル事業を進め、活用しやすい図書館をめざします。
- 市立図書館と連携して図書の魅力に触れる機会を増やし、読書に楽しむ環境づくりをおこないます。

授業のクリエイティブ

- ・毎日の授業の中で、「授業のクリエイティブ」の8つの方策を取り入れながら、授業づくりを進めています。
- ・子どもたちが「どのように学ぶか」に焦点を当て、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図っています。
- ・「できた」「わかった」を大切に、子どもたちの学びに向かう意欲を育てていきます。



授業のクリエイティブ

授業改善研究員 倉本 裕子 執筆

| | |
|---|---|
| 1 | <p>本時のめあてを明示 (課題提示)</p> <p>・「めあて」とは、子どもが解決する課題のことです。「内容」「方法」「手順」に際する子どもが「めあて」から何を学ぶべきか、子どもが何を学ぶべきか、主体的な学習に促すことが大切です。</p> |
| 2 | <p>言語活動 (主体的な学習活動)</p> <p>・自分の考えを表現する活動です。少人数での学び合いや、反つ道を一対一に促すことや、学習した各教科の言葉を用いて説明するといった時間や方法を、授業の中に位置づけます。</p> |
| 3 | <p>個別の支援 (具体的な手立て)</p> <p>・子ども一人ひとりの実態に基づいて、具体的に支援をします。既習設定や問題解決の手立てを、個別に促す必要があります。</p> |
| 4 | <p>考えを問う発問 (「理由」「方法」を問う)</p> <p>・単に正解を問うのではなく、「理由」「方法」など、考えを問う発問を工夫します。また「分からなかった」と説明することで、理解の糸口を見つけてあげることが大切です。</p> |
| 5 | <p>評価活動 (個々の見取り)</p> <p>・やらせっぱなしで終わるのではなく、本時の目標にのじた評価規程を具体的に評価し出し、個々を見取ります。具体的に子どもを促すことが出来れば、周囲の子どもにも「モデル」となります。</p> |
| 6 | <p>ふり返り (自分の言葉でまとめ)</p> <p>・その単元の学びを自分の言葉でまとめることで、より深くに理解させることができます。このふり返りは学習のめあてに出ったものになるよう工夫します。</p> |
| 7 | <p>板書 (学習の足跡)</p> <p>・授業の1時間の流れや子どもの思考の深まりが明確に分かる板書を工夫します。また、ノート指導とリンクした板書も大切にしています。</p> |
| 8 | <p>ノート指導 (課題→自己解決→今日の学び)</p> <p>・課題のめあてと自己解決と思考の中で新たな学びが深まり、整理して書けるように指導します。様式はある程度を定めておくと、定着しやすくなります。</p> |



全てを一度に実現するのは難しいかもしれませんが、日頃の授業で8つのポイントがどれくらい取り入れられているかを常にチェックして、授業改善を図りましょう。

学ぶ力向上に関する検証改善サイクル

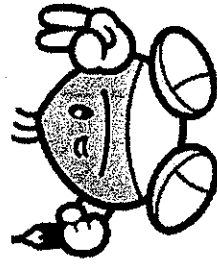
- ・全国学力・学習状況調査結果、栗東市学力調査結果を詳細に分析し、毎日の指導改善に役立てています。また、調査の個別の結果を、一人ひとりの指導資料としています。
- ・各校において「教師の意識改革」「授業改善」「学習習慣」「学力補充」の4つのキーワードをもとに「我が校の学ぶ力向上策」を作成し、定期的に達成度を評価しながら学ぶ力向上を進めています。

各種調査の実施

- ・「ふだんの生活習慣アンケート調査」を平成18年度から毎年5～6月に実施しています。子どもたちの基本的な生活習慣や、読書、運動に関わる習慣を調査し、経年的に比較検討しながら日頃の指導に生かしています。

家庭との連携

- ・各校では「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習習慣の定着を図っています。
- ・「早ね・早おき・朝ごはん」等の啓発を行い、生活習慣の確立をめざしています。



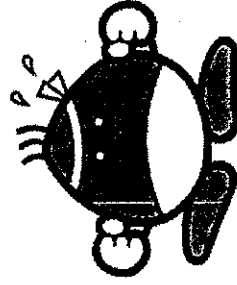
ご家庭のみなさまへ

・全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力の一面を切り取ってひとつの指標として
いるものであり、決して競争をあおるためのテストではありません。子どもたちにとどのよ
うな学力が身につにつき、どの点で課題があるのかを明らかにし、日々の教育活動に生か
すことが主なねらいです。

・ここに示した資料は、栗東市全体の概要であり、お子さん一人ひとりの状況とは一致し
ない面も少なからずあります。お子さんの学習状況を考える上での参考資料としてくだ
さい。

・子どもの学力向上には、勉強することはもちろん、自尊心を高めたり、将来の夢を
持って生活したりすること、健全な生活習慣や人間関係、心を豊かにする体験や人と
のコミュニケーション、体力を身につける日常の運動習慣や心身ともに健康な状態を
保つことなど、様々な要因が関わっています。お子さんがそういった安全・安心な環境
で学習ができますよう、これからもご配慮いただきたいと思います。

今後ともご理解とご支援をよろしく願います。



栗東市教育委員会